

■講義

「地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員のあり方」

副題 ～下松市における地域学校協働活動への取組実践～

下松市立下松中学校区での活動事例

講師 下松市地域学校協働活動推進員

下松市立下松中学校区 中村 啓 様

- ・ 中学校の学校運営協議会委員となる。
学校評議員制度とどこが違うのか。どんな支援ができるのか。
- ・ 学校のマスコットキャラクターの作成を転機に、コミスクが本格化。新たな組織、目指す子ども像の策定
- ・ CS コーディネーターの活躍（高校との連携・不登校生徒の保護者支援・花いっぱい活動・コミスクカレンダー作成）
- ・ 学校運営協議会委員の学校行事への支援活動
1年生の笠戸島研修（1年目：活動の提案、委員が魚の調理支援等直接の支援・交流）
（2年目：事前に教職員に魚のしごの研修を実施、PTA・地域住民・委員の協働支援）
- ・ 活動の成果
生徒・教員との協働活動の充実感、
◎協議だけでなく、アクションを起こすことで道が開ける。
学校が動き、コーディネーターが動き、委員が支援。
推進員として年間約40日学校を訪問している。



下松市立久保中学校区での活動事例

下松市立久保中学校区 藤江 旬仁 様

- ・ 藤山中学校の現校長の森田校長先生は、今回発表の実践をしたときの久保中の校長。
- ・ 森田校長の忘れられない言葉
“コミスクルームは学校と地域の皆さんをつなぐ架け橋です。地域の皆さんが気軽に来てくれるサロンです。”
- ・ 学運協設置4年後に、「たくましい久保っ子を育てる会」を創立



ボランティア（出して中学生）の育成が目的

- ・ 大変活発な中学生ボランティア活動 「生徒なくしては地域は存在しない」
- ・ どうしたら地域の中に溶け込んでいけるか → コミスクマスコットキャラクター作り
「くーぼ」の誕生：平成 29 年 12 月
- ・ 森田校長赴任により一層の活性化（平成 30 年 4 月～）
“生徒が主体、学校・家庭・地域を核とした地域づくりを進めていきましょう。”
- ・ 年 4 回の会だけではできない。毎月定期的な会議をしよう。

「くーぼの会」：生徒、先生、PTA、地域

活動の提言～学校運営協議会で承認されて初めて実施
盆踊り大会参加、運動会で地域のお年寄りと玉入れ競技、
文化祭でくーぼと一緒にみんなで踊るポンポコリン
くーぼのアートミュージアム（中学校全体をミニ美術館）
小中連携夏休み野外体験学習会、
学校全体を電飾

- ・ ツイッター開設（卒業生向けに母校便り発信）



◎地域も学校。小学生は見守る。中学生は地域の担い手として地域貢献を進んでやる。

校長先生としっかり熟議をしてほしい。校長との二人三脚がとても大切。校長と一緒にしないと前には進まない。

生徒が主体。生徒のためならどんなことでもやる。

■グループ協議

